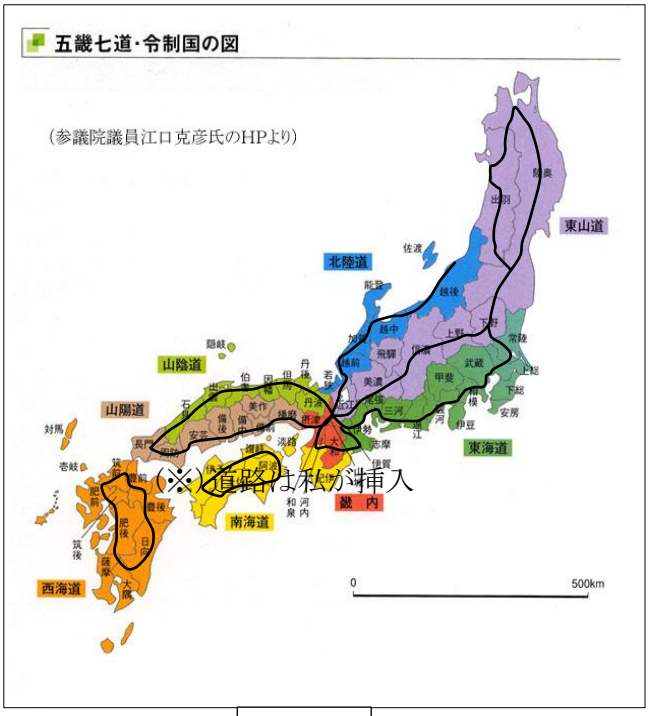
第五章　第２節「旧羽州街道」スルーハイク
～［六十五ハート全開―奥羽両州連結大作戦（日本第４運河開通）］～

標記旧街道を正味 2014(平成 26)年９月 14 日(日)桑折スタート～９月 30 日(火) 油川ゴールまでを 16 連泊 17 日間、ルート沿い計画距離 502 kmに対する実歩行距離 557 kmを連続連日歩行で踏破しました。１日平均の実歩行距離は 32.7 km、同時間は 9.1 時間、同平均時速は 3.6 kmでありました。もちろん、この期間中に休息日は入っていません。全ルートの概要は図―93 のとおりで、この時足跡を残した通過県は、福島県、宮城県、山形県、秋田県、青森県でした。

図－93

１．この旧羽州街道を選定した理由

私は、羽州は出羽国山形市内に在住しています。この市街中央部を旧羽州街道が走っています。徳川幕政時代の参勤交代においては十三藩が利用し、陸奥の国の津軽藩・黒石藩も利用したそうです。現代に戻って、東北地方を地形的に外観すると、その南北中央部に奥羽山脈が位置しています。人間で見れば脊柱であり、生き方の王道が重なって来ます。その東側には東京は日本橋から青森は三厩まで旧奥州道中（これは江戸時代の名称で通称旧奥州街道）が走っています。一方この旧羽州街道は同山脈の西側を福島県は桑折から吾が故郷山形を経由し青森県は油川まで走っています。外観すれば、脊梁奥羽山脈を中央に、右には旧奥州道中、左に旧羽州街道が同山脈を挟む、取囲むように走っているのです。この中で旧奥州道中は 2013(平成 25) ９月４(水) 日本橋スタート～10 月１日（火)三厩ゴールまで、正味 27 連泊 28 日間でスルーハイク踏破・貫（完）歩を果たしていました。右側だけでは片手落ちですから、当然の如くと思い左側の「旧羽州街道」のスルーハイクを企図したのです。



図－94

そして、何よりも、吾が居住地を通過する大道でもあります。この両道の位置付けを見ます。奈良時代から明治初期までの日本の地方行政区（地理的区分の基本単位）を令制国、あるいは律令国と云い、「５畿七道」（図―94／インターネットより）の区分けをしてい

たが、陸奥国（奥州）と出羽国（羽州）を合わせた地域を「奥羽」と言い、今に繋がり現在の東北地方と一致します。

2.「大香ブランド老魂サブタイトル」設定の背景事情

下記の様々な思いを乗せて歩く事にしました。

（1）六十五ハート全開の意味合い

目標を明確化し歴史街道・古道スルーハイクを開始したのが、定年退職翌年の 2010(平成 22)年 61 歳の時です。それから 5 年が経過し、今年は満 65 歳（六十五）の節目の年です。この節目に相応しいロングトレイルを考えた時、懸案の一つであった吾が山形を通過し出羽の国を貫く旧羽州街道のスルーハイクの敢行です。計画距離は 502 km余りであるが、今年最後の本格的スルーハイクになろうから全力投球で挑んで見ようと決意したのです。

“　なよ竹を強くする節に準えて　六十五に節を羽州の古道　”

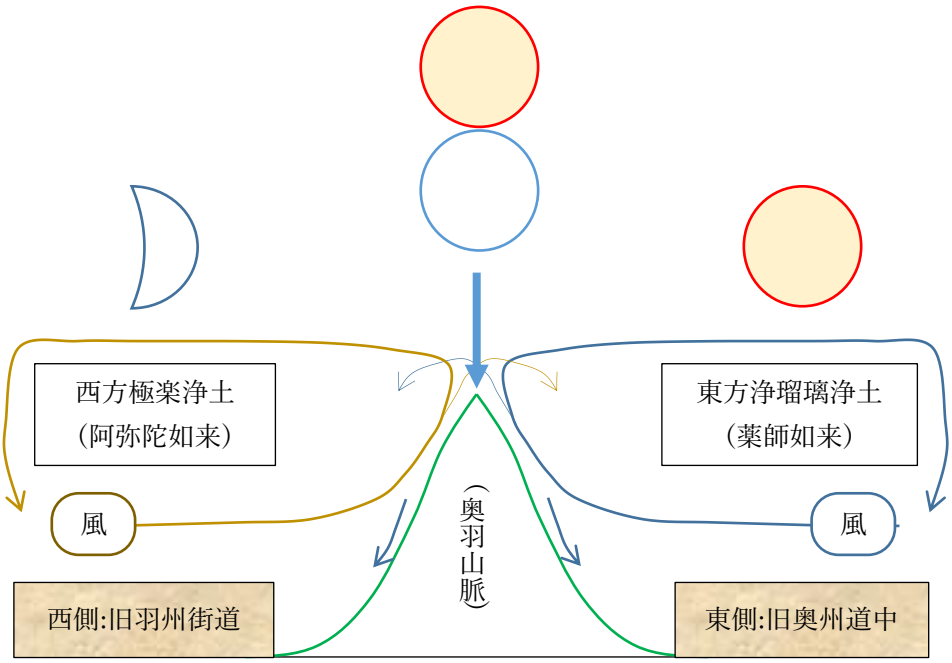
（2）連結の意味合い

スタート地点の桑折は奥羽両州旧街道南端の分岐・合流点であり、ゴール地点の油川は同両州北端の分岐・合流点であります。どちらから見ても、両基点同士を結ぶ事になります。同基点は入口と出口に相当させる事も出来、これを結ぶ事にもなります。色気の話に移すと入り口の出会いは接吻、出口の出会いは合体になります。分岐点は合流点でもあり、始点と終点、起点と閉点の関係にもあり、つまり、別れる・離れる事は同時に、新しい事物と出合う事と両義を持ちとても神聖な処です。この神聖な両方原点をそれぞれに於いて結合する事にしたのです。それは道の結合のみならず両州の地域・エリアの接合にも繋がります。老魂サブタイトルに挿入した「奥羽」は、前記のとおりの「旧奥州道中」と「旧羽州街道」の連結の意味合いを込めたものです。

（3）両浄土界の検分

奥羽両州を神仏の心から眺めた空間イメージが図―95 のとおりです。東方浄瑠璃浄土（薬師如来）の風土は謳歌したが、片手落ち、西方極楽浄土（阿弥陀如来）にも行って見たいとなったのです。欲張りの本性が現れたのです。旧奥州道中の道筋はほぼ直線ですが、旧羽州街道は横手から秋田、その先で大舘へと大きく蛇行、枡形状に曲がっています。つまり、前者は陽の性質を帯びているとすれば、後者は陰の性質を帯びていると見做されます。このライン形状から前者は太陽、後者は月の相を持っていると見ました。これらの見方と合わせて、元々、神社・仏閣、路傍の庚申塔などの石碑類が大好きなので、天神地祇と十方諸仏を仲間にして歩きたく発心したのです。

（　ところで、余談であるが、浄瑠璃浄土の瑠璃色は青味がかった色合いですが、２０１４年ノーベル賞物理学賞に青色発光ダイオード（LED）の発明に係った３人が受賞しました。とても目出度い事です。　）



図－95

（４）日程の設定

ａ．時期

今回は実りの秋に拘ります。稲（命の根）は古来より日本人の主食米であり、その稲の刈り取り・収穫時期を狙うと共に秋彼岸も組み入れ、仲秋季（図―96／インターネットより）９月としました。

図－96

ｂ．行動開始日

冒頭記のとおり、十三藩の 13 に着目し、私も入れて 13＋１＝14 になる事から、９月 14 日（日）を実歩行開始日と決定しました。何事も陰陽相対（待）性原理の世の中、両面・表裏・本体と影の如くであります。まずは、苦しみから敢えて逃げないと言う思いを込めています。またこの日には別の視点があります。一般的に忌み嫌う９と４の間に、１が配置しています。何も９４（陰

の相）を殊更に忌み嫌う必要はない、と言う意味合いで、ナンバーワン（1̀４の１／奇数は陽の相）が割り入っています。別視点から、ナンバーワンに内蔵の圧力は有頂天・満身です。これを挫く必要があり、これを９と４で挟み撃ちにしたとも解せます。合わせて、いわゆる中和・中性化を狙っています。

一方、９は３×３＝９いわば三々九度で目出度い事を暗示し、４は幸せにも通じると解し、９月14日の月（＝月・陰・逆）日（＝日・陽・順）に着目し、反対向きから日→月の順で読むと「一矢を報いる（いっしをむくいる）」にも通じます。なお、報いるの『む』は『６』にも繋がり、その反対姿形は『９』です。すなわち『９』の反対姿形は『６』です。「９４」→「４９」は「四輪駆動」となり、よし！フル馬力で行こうと元気が出ます。順相と逆相は見方の違いであり一体・一つのものです。

なお、旧奥州道中スルーハイクの日本橋スタートは９月４日（水）でしたが、その時は、最初からずはり９４を狙っての設定でした。

“　トレイルに貫通力の栄養素　豪華なご馳走苦難と試練　”

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ところで、余談だが、「６＆９」はＳｉｘ（シックス）＆Ｎｉｎｅ（ナイン）という。勾玉が二つ合わさった形（図－97）にも見える。二つを加減乗除すると。

（加）６̇＋９̀＝１５　⇒　１＋５＝６̇

（乗）６̇×９̀＝５４　⇒　５＋４＝９̀

――――――↓↓

６̇９̀

（減）９－６＝３　　⇒３÷２（６と９の二つ）＝１．５

（除）９÷６＝１．５　⇒　１．５×２（６と９の二つ）＝３

図－97

（５）導分けの猿田彦大神との縁起

ａ．携行物その１はアオキ

街道の分岐点にとても良い縁起がある植物に、葉が十字対生のアオキ（図―98）などがあります。上から見ると綺麗な対称性の十字を構成しています。これは、道分けの神（導きの神、道ひらきの神、むすびの神）、（※１）猿田彦大神（以下「サルタヒコ」と言う）と密接不可分の関係にあります。スタート地点（入口）の桑折およびゴール地点（出口）の油川はＹ分岐（三叉路、Ｔ字路）ですが、入と出は相対的に正逆関係（入口⇔出口）にあり、合わせれば十字路（Ｙ→Ｔ→Ｔ＋逆Ｔ→十）になります。この度は、特にサルタヒコに拘ってハイクします。この神様は、いろいろな神と習合し道祖神として崇められるが、それ故に大衆性を帯びて、怖い存在ではあるがどこか親しみを持てる存在になっています。なお、アオキは赤い実を付けるが、吾が庭のものは真冬から早春にかけて赤くなります。要するに変わり者（偏屈？）を象徴し、私に

図－98

はとても似合います。これを携行します。

b．携行物その２はお米＆神滝（真水）

また、「斎庭稲穂の神勅」の神話のことも踏まえて、実りの秋に相応しい五穀豊穣のシンボル稲穂にも着目します。スタート前日の９月 13 日(土)、そのアオキ（崩れない）に加え、近所の山形（＝佐藤邦夫さん）の田圃より頂戴した稲穂（はえぬき）の二つを 150ｃｃペットボトルに入れ、菩提寺は石行寺の（※２）神滝（瀧山1,362m を源とする龍山川を分水）の清水（真水・淡水）で満たして準備しました。この時、その清水で手を洗い、水滴を身体に振り掛け、水垢離の儀式を行いました。そのボトルを背負い、ゴール地点の油川の港（河口）で海（太平洋は青森湾）に注ぎ入れる事にしました。その状況は図―99 のとおりで、理由は次のとおりです。「神道の神秘」（山蔭基央著）の本を読んでいる時に気付いたのです。その中に「川は淡水（真水）で男性象徴であり、海は海水で女性象徴である。その二つが交わる河口は、男女交合のシンボルである」と記載（前後のストーリーから記紀にあるのか。）されています。この話に触発され、今後の歴史街道スルーハイクで、海辺に立つ事があれば、予め、自宅近くの龍山川の淡水を汲み上げて背負う事も楽しいと思い、その機会を狙っていたのです。そこでこの度これを実践する事にしたのです。

図－99

“　菩提寺の神滝を浴びて水垢離し　精気を養い準備万端　”

（※１）猿田彦大神と道祖神との習合；宗教哲学者の鎌田東二さんの著書「謎のサルタヒコ・隠れた神サルタヒコ」他に依れば、瓊瓊杵尊（天照大御神の孫神）一行が高天原から吾が邦の国土に天下るに際し、天からの分かれ道・十字路に立ち、上は高天原を照らし、下は葦原中国（国土）を照らすサルタヒコがいて、その先を道案内、先導啓行し、日向の高千穂まで無事届けて大役を果たした。この際、瓊瓊杵尊は天照大御神から三大神勅を賜るが、その一つは「斎庭稲穂の神勅」であり、サルタヒコにその稲穂が授けられ、同神はその種を蒔き、実らせた最初の国津神（地祇）の統治者と言う。この事から、本街道スルー

ハイクに今年の実りの稲穂を取り入れる事としたのです。仏教に言う青面金剛に対して、神道の側から「庚申の夜に祀るべき祭神はサルタヒコである」と説いたのは、江戸前期の儒者・神道家である山崎闇斎で、その流れを汲む神道家によって広まったと云う。簡単に言えば“赤い顔をした鼻高の天狗”である。そのサルタヒコを庚申尊とする訳は、猿田彦の“猿”が庚申の“申”に通じる事もあると云う。瓊瓊杵尊の露払いをした事から禍・厄難を払う力があると考えられている。別名・大田神と呼ばれるサルタヒコが田の神・豊饒の神と見做され、豊作豊饒の願いを叶えてくれる神とも考えられたと云う。

（※２）この菩提寺の水の所以について（図―128)、菩提寺境内に引き込んでいる龍山川は、奈良・平安時代の当地区（吾が故郷）瀧山信仰三百坊繁栄の中核的存在で神聖かつ貴重な水資源となって来た。この川には龍神様も住んでおり、八百万の神と十方諸仏と共に川に溶け混み、上り下り漂游している、とても神聖かつ綺麗な水流となっている。当寺のすばらしい御池に、その龍山川の真水を分流している神滝がある。そこには、不動明王様（＝男神）と弁才天様（＝女神）が清水に打たれて祀られています。逆にいうと、不動明王様（＝男神）と弁才天様（＝女神）を洗い下った真水には、二つの霊力が溶け込んでいることになります。

３．歩いて見た～感謝感激の連続

“御萬の神祇諸仏と衆議する　スクラム組んで難関突破”

“サルタヒコ道分け裁き先を駆け　我を善導人生教師”

“時偶に萎えた弱虫迷い込む　老魂力で強制退去”

“道筋に地祇とお地蔵集い来る　笑顔振り撒き昔を語る”

“一人旅吾の相手はどなた様　道に出没神祇と諸仏”

（１）スタート

桑折スタート地点は図―100のとおりで、「奥州街道　羽州街道　追分」と書かれた木柱碑が建てられており、柳の木の下に追分碑等の石塔があり後方に東屋があります。青空、快晴に近く、いよいよ、同図上の左方向への道に入りスタートです。右方向は旧奥州道中（＝旧奥州街道）です。

“ここに来て六十五の命狂い咲く　豆粒華の満開目指し”

“青空に二人で描くＹ字星　猿田彦大神と旅発ちの宴”

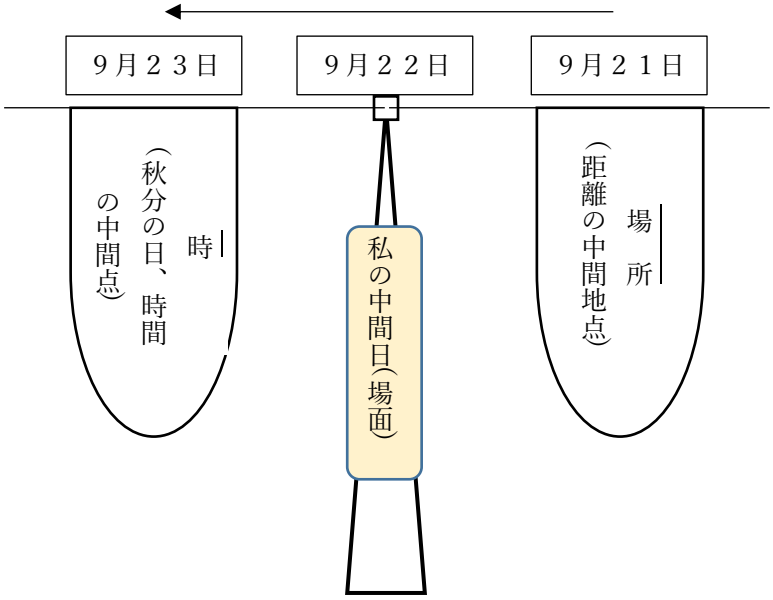
図－100

（２）中間日

秋田県仙北郡美郷町六郷町内に距離的な中間点とする図―101の標柱がありました。この六郷は前日 21 日(日）通過していま

図－101

す。私の実際の日数上の中間日は、歩いた全日数 17 日間÷２＝8.5 日、つまり、９日目の当日は９月 22 日(月）の日中でした。翌日の 23 日(火）は秋分の日です。また、数字の事です。22 日は２が並んでいます。左右（上下）に均等に芽を伸ばしていると見ます。前日（21 日）は距離（場所）的中間地点の節目、翌日の秋分の日（23 日）は昼夜同じ時間の時の節目でしたが、私の節目となる中間日（22 日）は、その間に挟まれた日であったのです、つまり、八方美人的に両方に肩入れする事無く、中（ちゅう）を成してその間に位置したと言う事になります。ここにも中和・中性化の霊力が働いています。また、２＋２＝４、また、４が出ました。不思議な数字のいたずらの縁を感じました。別の視点からです。発言する時機、言葉の使い方、行動のタイミングは、時（time）と場所（place）と場合・場面（occasion）の三条件から為るＴＰＯを考えて対応せよとの啓発用語があります。マーケティング諸施策でもこのＴＰＯが重視されており、多品種少量生産が進む中で、社会状況（時)、地域事情（場所)、ライフスタイルや消費者嗜好（場合）を考慮した商品開発や販売手法が非常に大切であるとの教えです。　私の中間日がこのＴＰＯに重なって表れたとの思いから、図―102 のような天秤様相が浮かんで来ました。いわば、場所と、時と言う次元の違うものを同じステージに持って来て、同じテーブルに並べて対比させた観想です。



図－102

（３）ゴール

“　桑折（こおりた）発ちついに終着油川一つ一歩の微幅が実る　”

ついに、ここに「大香ブランド老魂（RouCon）サブタイトル」の思いを成し遂げる事が適い、素直に嬉しく喜びました。

ａ．最終日

この日の行程は青森県青森市浪岡から油川までの区間です。油川の手前約４㎞手前の新城地区に入ったら急に強い風が吹き出したのです。強い時は風速 10ｍ以上はあったと思います。いよいよ油川の集落に入り、最終地点の僅か手前、熊野宮（神社）正面入り口鳥居の所に「羽州街道終点地　伝馬町」の立て看板ありました。そして「羽州街道・松前街道（＝旧奥州道中＝旧奥州街道）合流の地」の石柱がある所に到着し、ついに奥羽両州結合を果たしたのであります。この頃になると強い風はぴたりと収まりました。図―103 のＴ字路が合流点で、向こう側左右の通りは旧松前（旧奥州）街道、手前から突き当たる道が歩いて来た旧羽州街道です。図―104 は合流点に設置された説明版です。

図－103

b．真水（淡水）と潮水

その１：次に、背負って来た神滝（みたき）の清水（真水・淡水）を太平洋（青森湾）に注ぐべく油川港（河口）に向かい、図―105のとおりの注ぎ入れの儀式を行いました。支援を賜った多くの方々に感謝し、常に離れなかったサルタヒコ、出迎えてくれた天神地祇に対し、合掌し、柏手を打って拝礼・斎行しました。ここで驚くべき事が起こりました。まったく予期せぬ想定外の事です。注ぐ頃に、少し前から現れた雲からぽたりぽたりと雨が落ち始めたのです、そして注ぎ終わろうとした瞬間、強い本降りの状態に急変したのです。ちょうどぴったり１３時でありました。慌てて雨具を着用しました。合流地の所にバス停がある事からそちらに急遽移動し、少し待機した後の、１３時１３分にはすっかり雨が上がりました。通り雨でありました。この真水を汲み上げたのは９月１３日（土）午後でした。この街道を参勤交代で利用したのは十三藩でした。また、数字の出具合に不思議な縁を感じました。

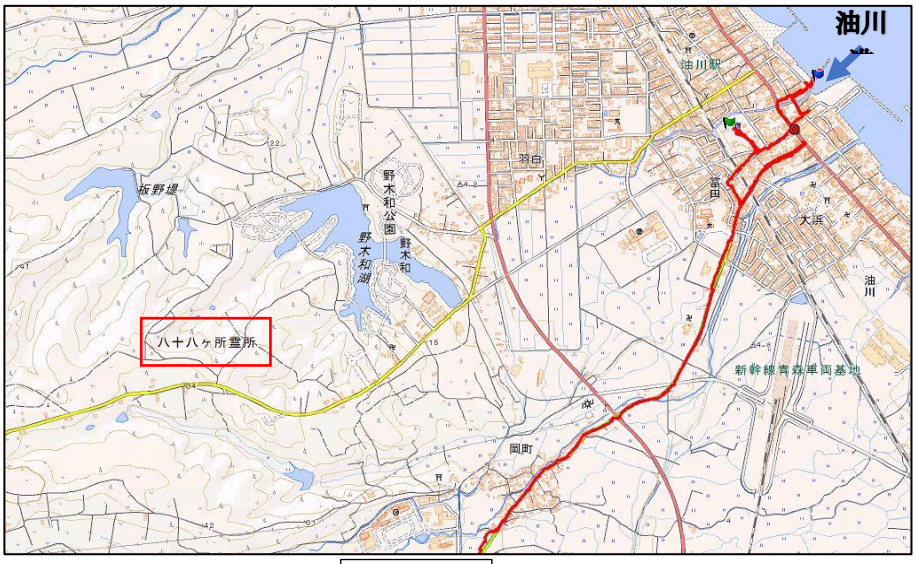
図－104

この時の俄か雨の天の配慮・天のご加護の意味合いは次の二つあったと思います。一つ目は、菩提寺の真水を背負った訳ですが、僅かの 150 ccでしたから、加憎水してくれたものだと思います。二つ目は、禊（みそぎ）の水垢離（みずごり）の、沐浴潔斎（もくよくけっさい）の贈り物、浄化の雨だと思います。17 日間の汗で汚れた身体と心を浄化してくれたのだと思い、神仏のご加護にただ忝（かたじけな）く思いました。

図－105

“　天からの至高プレゼン雨の水　天が下した禊のご加護　”

その２：前記に続く内容です。背負って来た真水（淡水）を川が海に入る河口に注ぎたく狙っていた訳です。そのとおり実行したのが、図―106の図のとおりの右上の矢印の場所です。陰陽（男女）交合の儀式を挙行した事になります。元々河口は海水（女）と淡水（男）の衝突場所ですが、ここに新たな別の場所の淡水（男）を注入した訳ですから増々激しくなった、炎上したとの想念に繋がった訳です。地元の真



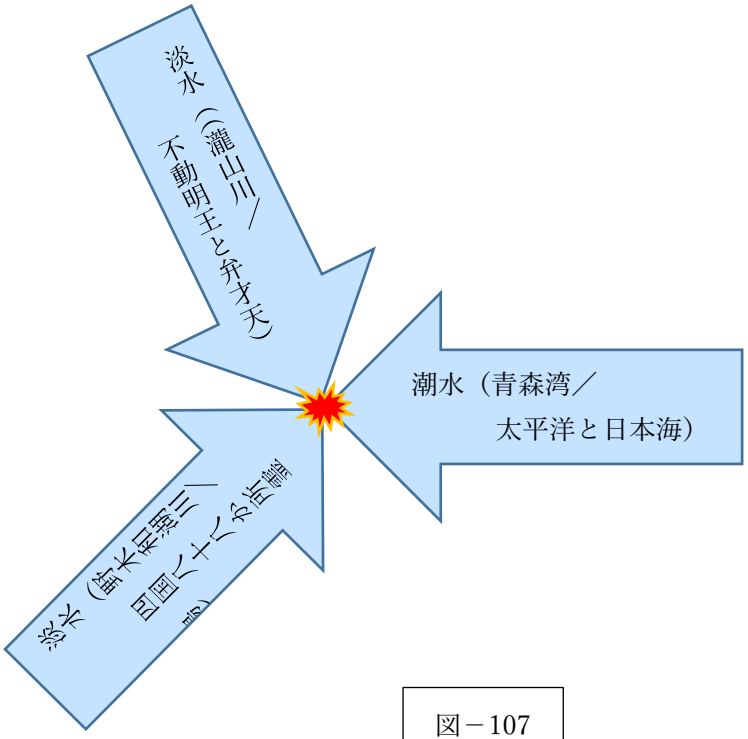
図－106

水の男と海水の女は、仲良く平穏だったが、そこに突然、新たな真水（第三の男）が侵入した訳であるから、三角関係の衝突に発展し、海水が水蒸気と成って激しく上昇して雨が降ったものではないのか。この河口に入る川（この川の河口付近は幅数m程度の小さな川で名称は見当たりませんでしたので、仮称『野木和湖川』とする。）を俯瞰して見ました。上流には野木和湖があり、その西側一帯に四国八十八個所の写し霊場がある事が分ったのです。その一帯は山ですから雨は当然野木和湖に流れ、川となって油川港のこの河口に注ぐ事になり、本霊場の霊気・霊威を溶かし込んで流れていた川だったのです。そこに吾が菩提寺の神聖な真水を注水・混合させたのです。この合体構図は図―107 のとおりとなり、異なった次元のものの合体ステージです。非常に嬉しくなりました。

“　神聖な陰陽まぐあう河の口（くち）潮と真水が炎上歓喜　”

その３：改めて真水すなわち淡水

安岡正篤（まさひろ）氏がその著書「酔古堂剣掃（すいこどうけんすい）（ＰＨＰ文庫)」の中で含蓄のある講釈をしていますので、引用しながら簡単に記述して見ます。―――「君子の交わりは淡（あわき）水の如し（荘子)」の故事がある。淡とは、甘いとも苦いとも渋い（このような味は『偏味』と言う）とも、何とも言えない味を言う。偏味で無いものは実在の世界では「水」である。したがって「神味」あるいは「至味」と言う。だから人は死ぬ時「水をくれ」と言う。――そう言えば私の父が亡くなる時、息を引き取る数時間位前から「水をくれ」と何回も言いました。もちろん、口に含みましたら、ちゃんと飲みました。その故事の後には「小人の交わりは甘きこと醴（こざけ）の若し」と続きます。醴（こざけ）とは甘酒の事で、要するにベタベタした関係を言う。水から大いに学びました。



図－107

ｃ．真水の「日本第４運河」開通

前記に続く内容です。吾が地元の神聖な龍山川の清水（真水）を背負い、この河口に注水したと言う事は、山形の地から運河を開削し開通させたも同然です。それは取りも直さず、龍山川と青森湾を直結した事になります。これを自称「日本第４運河」と名付けています。なお、第１運河は前記 2010(平成 22)年 7 月 27 日(火）宮城県閖上海岸スタートの「旧山宮街道スルーハイク」に於いて、第２運河は前記 2012(平成 24)年 9 月 27 日(木）糸魚川日本海岸壁スタートの「旧塩の道（秋葉街道）スルーハイク」に於いて、第３運河は前記 2013(平成 25)年 9 月 4 日（水）日本橋スタートの「旧奥州道中スルーハイク」に於いて設定した名称です。

前記３個所の運河には海水を流しているが、この「日本第４運河」はそれらとは異なり、真水・淡水を流したのです。ここに大言壮語、結果してそれらの混合水はやがて青森湾から太平洋ならびに日本海に流れ、地球規模に拡散するであろう、私、当地区皆さんの天下泰平・五穀豊穣・子孫繁栄の願いが世界の平和と安寧に寄与・貢献するものと確信した次第です。

“　龍山川と青森湾が結ばれて　奥羽三つ目の運河が開通　”

ｄ．拘ったサルタヒコとの縁

最終日３０日（日）の早朝、宿を出て再スタート間もなく、道沿い 180ｍの所に図―108 左の「猿田彦大神（文化八年／1881 年)」の石碑と対面し、ゴール地点直前に同じく 180ｍ手前道沿い（前記、熊野宮境内）に同図―右の「猿田彦大神（明治三十四年／1901 年)」の石碑に対面出来たのです。つまり、最終日の入口と出口にサルタヒコが表れたのです。余りにも偶然と言うか、出来過ぎた表れ方にびっくりしてしまった訳です。つまり、最終日の歩行開始時点と終了時点に、この「旧羽州街道」スルーハイク設定の段階であれほど拘った「猿田彦大神」が生きている人物として出現したかの、と錯覚に捉われるほどになりました。

図－108

“羽州路の歩きの旅をゴールする　神祇諸仏がテープを渡す”

“羽州路の長旅終えてゴールした　猿田彦大神とがっちり握手”

（４）拘った稲穂

この時期は、秋は稲の収穫期でした。『米』は我が国の主食であり、重要食糧としてのシンボル的存在です。その米は、殆どは水田で栽培する水稲ですが、戦後開拓に入植した両親は、私が幼少の頃、耐旱性や耐病性が強いと謂われる陸稲（＝おかぼ）を畑地で栽培していました。このことに思いを致し、前記

「斎庭稲穂の神勅」に加え、亡き両親の当時の農業に勤しむ姿をも重ねたかったのです。これらを次の三つの意図があって３県から稲穂を収集することとしました。

図－109

✓　その１； 山形のブランド米の一つは「はえぬき」ですが、これは前記のとおりです。秋田のブランド米の一つは「あきたこまち」ですが、12 日目の９月 25 日（木）秋田県能代市大森地区に差し掛かった際、おばあちゃん（米寿を迎えた／この方の男のお孫さんが四国八十八か所霊場を結願していた。）に声を掛け、稲刈り直前の稲穂（こまち）を秋田（＝落合）さんから頂戴しました。青森のブランド米の一つは「つがるロマン」ですが、15 日目の９月 28 日（日）青森県大鰐町宿川原で取入れ中の青森（＝相馬）さんからも稲穂（ロマン）を頂戴しました。図―109 が、皆さんから頂戴した三県ブランド米の稲穂の三位一体です。我が家の神棚・仏壇に神饌・供物としてお供えしました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

余談だが、稲穂の一粒のもみの中には、雌しべと雄しべの両方が出来上がり、雄しべから花粉が飛び散り、雌しべで受け取ると種を作り受粉が終わります。このような稲の花を両性花（「雌雄同花」）といい、その他にはキク、タンポポ、サクラ、スイセン、ユリ、アサガオ、モクレン、スイレン、ハス、エンドウ、ナス、バラなどがあります。

✓　その２；宮中祭祀神饌の主役となるからです。大王が天皇の係る宮中祭祀の一つに新嘗祭があります。収穫祭に当るもので、11 月 23 日（勤労感謝の日）に、天皇が五穀の新穀を天神地祇に勧め、また、自らもこれを食して、その年の収穫に感謝するお祭り（神道性宗教的儀礼）です。この時に、神饌のど真ん中に最も重要なものとして、てんこ盛りに飾られる・供されるのが『米』です。なお、天皇が即位の礼の後に初めて行う御一代の大祭となる新嘗祭を大嘗祭という。

✓　その３；稲・米は古来、生産の根本原理、すなわち五穀豊穣の象徴的存在とされ、さらには、人間に重ね、夫婦一体となった中での子孫繁栄シンボルとしても崇められて来たのです。

これらの時に浮かんで来た短歌を記載してみました。

“味比べがちんこ勝負つがるロマン　秋のこまちと山のはえぬき”

“三県のブランド米が勢揃い　神に神饌仏に供物”

“風が吹く黄金まばゆい田の原に　籾が擦れて宝の音色”

“稲穂から素敵な唄が聞こえ来る　『満つれば垂れる謙虚に生きよ』“

“日の本の穀倉帯が賑やかに　神祇諸仏と豊年祭り”

“日の本のお米が主役の新嘗祭　五穀の中に真白き富士よ”

（5）父母・相棒との同伴

歩き姿の基本は、いつものダブルストック・ウォーキングスタイルです。図―110のとおりストックの持ち手の所に、鈴と青・赤二つの袋を下げて歩きました。その意味合いは次のとおりです。

図－110

その１：亡父母をあの世から連れ出して、青い袋には亡父から、赤い袋には亡母から入って頂きました。両親は農業一筋で生きて来て、山形県内しか知らなかった事から、出羽の国は羽州の実りの秋の風景を見せたかったのです。

“歴史路を一気通貫徒歩(かち)の力(りき)　父母が作った二足が宝”

“あの世から父母を連れ出し共歩き　羽州の実りに感涙溢(こぼ)す”

“あの世から父が顔出し檄(げき)が飛ぶ　母はおにぎり陣中見舞い！”

その２：また、青い袋にはサルタヒコと、菩提寺は石行寺の神滝に打たれているお不動様（不動明王）から、赤い袋には、サルタヒコの奥様であられた天宇受売命(アメノウズメノミコト)と、同じく神滝に打たれている弁才天様からも入って頂きました。

“猿田彦大神(サルタヒコ)と天宇受売命(ウズメノミコト)名コンビ　我も友連れ天下を語る”

“猿田彦大神(サルタヒコ)辻に出没露払い　魔物を退治し俺を先導”

“天台石行寺(菩提寺)の神滝(みたき)の水を背負い行く　羽州に散らし平和を祈願”

（6）一期一会と頂きもの

私の旅路は、せっかく知らない土地、初めての土地に行く訳だから、折を見て、人様には積極的に声を掛ける事にしています。地域の人との会話の時は、一期一会の思いから全力投球です。必ず帽子を取って素顔・真顔を見せます。武士は、正座して話などをする時は、攻撃意思が無いと言う事の証明として、腰から抜いて右側に置き、刀を抜き難いように、刃を自分に向けて置きますがそれに通じる思いで対応します。

“何処(いずこ)でも女将(おかみ)の慈悲を受け給う　微笑(ほほえ)む小じわが苦労を語る”

“こんにちは事の初めは元気よく　気持ちを溶かし会話が弾む”

その１：11日目の９月24日(水）の13時頃秋田県八郎潟町真坂地区で、あるおばあちゃんに追い着いた処、突然梨をくれると言うのです。３個持っている内の大きな１個の和梨を頂戴しました。今は、旦那は老健施設に入り、自分一人暮らしの米寿を迎えたと言う事でしたが、とても元気な方でした。あれやこれやとついつい長話をしてしまいました。

“頂いた梨が取り持ち立ち話　米寿を祝いエールを贈る”

その２：12日目の９月25日(木）９時頃、秋田県三種町新屋敷の児玉商店のご主人（児玉稔金さん）に朝の挨拶をしたら、話が弾んでしまい四国八十八か所霊場結願(けちがん)達成の証書を見せて貰うと共に「のど飴」一袋を貰い、ついついご夫婦共々長話となってしまいました。間食をしない事にしているが、この「のど飴」が後のスタミナ源のスパイスになりました。さらに同日の昼頃、秋田県能代市大森地区で、

ここでも米寿のおばあちゃんと立ち話になりました。ちょっと待ってくれと言われ、わざわざ自宅から缶ジュース２本（リンゴとオレンジ）と缶コーヒーを持って来てくれ頂戴しました。

“のど飴が血肉に溶けて力を生む　馬力主のスタミナ源”

“羽州路はお米と果実が列を成す　美食を育む肥沃な大地”

＝＝

（後日談）児玉さんの結願書に刺激され、触発されて、以後、私も２回の四国遍路を完（貫）歩することが出来ました。児玉さんも２度目の結願を果たしたとの連絡を受けました。

その３：15 日目の９月 28 日(日）11 時過ぎ青森県大鰐町宿川原で、米の刈入れをしている方に声を掛けたらリンゴジュース１個を貰いました。その他に別々の方々から青森リンゴ「さんさ（赤い色)」「とき（黄色)」を１個ずつ頂戴しました。

“紅色のりんごがたわわはいどうぞ　頂きお礼に明るい別れ”

４．特徴的な事

（１）秋田県の三大特徴

①公道沿い（人里離れた所も、山間部も）が綺麗です。吾が山形県は綺麗だと思っていたのですが、それ以上に綺麗です。②欅の老樹・大木（公共地・共有地の他に民有地内も）がある杜が沢山目に付きました。③庚申塔を祀った、寄せ集めた庚申塚が非常に多くあり、七庚申碑が沢山ありました。秋田県内に係るこれらの事は、江戸時代は佐竹公の善政の賜物、良き伝統だと思います。なお、庚申は 60 日毎に廻って来るので、365 日の１年間は基本的には年６日（回）ですが、端数日の繰り越しなどで年７回の年と、年５回の年が出て来るが、その年は七日庚申、五日庚申と云われるもので、７日の年は豊作、５日の年は凶作と信じられていたようです。

（２）山の中の古道の状況

高い標高の峠越えは無かったが、廃道となり、背丈以上の笹竹やその他雑木・草木に蔽われて藪化した所が沢山ありましが、いずれも強行突破して来ました。不思議です。人前では何かにと右顧左眄、その挙句に妥協してしまい、後悔する事が儘あるが、山の中で一人になり、障害に当ると闘争心が擡げて来ると言うか、逃げる訳には行かなくなるのです。もう一人の自分がしっかり監視しています。雨が降らなくても、季節柄、夜間・明け方の夜露で草木が濡れる事から、直前に上下の雨具を着用し突っ込んだ個所も何か所かありました。「羽州街道交流会」の事務局があり、各地でイベントを開催しているようですが、街道を整備すると言うよりも温泉での酒飲み会になっているのではないのかと、穿った見方をしてしまいました。

“草木が背丈を超えて先見えず　藪を突破し開通気分”

“古道は手入れがされず藪の壁　男心でブレークスルー”

“藪に潜むとぐろにびっくり飛び上がる　急所を一撃防衛手段”

“鉄道が道を寸断行き止まり　忍者に化けて一飛び跳ねる”

（3）改めて神仏習合

生活に溶け込んでいる神仏混淆の実態をいくつか列挙して見ます。神仏を垣根なく祀っている処に感激し、とてもうれしくなります。

“出羽之神仏（でわのかみほとけ）を連れて先を行く　地祇（ちぎ）が差し入れ羽州の料理”

“鳥居立ち神と仏を架ける橋　神秘の杜が違いを解かす”

a．秋田県院内の愛宕神社

図－111

図―111 上のとおりで、境内には社務所もある立派な神社です。江戸時代、久保田（秋田）藩主佐竹氏が崇敬社として定めた「十二社・三国社」の内の一つで、今でも秋田県内でも格式のある神社のようです。おそらく宗教法人だと思います。同境内の中に同図下のとおりの秋田県有形文化財に指定されている「木造十一面観音菩薩立像」の説明版が設置されています。どこに安置しているのか湯沢市教育委員会に直接確認した処「同神社の内部に安置している、春の例大祭の２日間のみ開帳する。」との事でした。歴（れっき）とした仏像を、神社が預かって秘仏扱いとして大事に保管・管理しているのです。

b．祠（ほこら）と鳥居

11 日目の 9 月 24 日（水）通り掛った秋田県秋田市飯島地区には、図―112 のとおりの正面に大きな立派な朱色の鳥居を設置し、石造の祠には如意輪観音・お地蔵様等の立派な仏像、庚申様が安置祀られていました。このように正面に神式の鳥居を設置し、その神域（境内）には仏像・庚申塔を安置する庚申塚といわれる処が、特に秋田県内には沢山ありました。当滝山地区においても神社境内に仏像・庚申塔を安置するのは何も珍しい事ではないが、これまでの歴史街道トレイルの経験を通して見るに付け、神社境内で無くて、仏像・仏様・仏式の石碑類だけを鳥居で結界すると言うのは山形県・他県を含めて多くはないと思っています。秋田県民の篤い信仰心が窺われます。

図－112

（4）千秋公園と弘前公園

10 日目の 9 月 23 日（火）昼、秋田市千秋公園（図―113 上）を訪れました。また、16 日目の 9 月 29 日（月）10 時前後に弘前市弘前公園（同図下）に立ち寄りました。共通点を記述して見ます。それぞれ前者は佐竹藩主、後者は津軽藩主の居城であったが、今は市民憩いの場所です。桜木は当然として、老樹・大木の松の木、そして楓（かえで）の木、お堀

図－113

（池）には蓮・ジュンサイが植えてありました。桜だけではないのです。風雅・風情のある広大な日本庭園になっています。江戸時代の両藩主の先見性に恐れ入ります。

そこで、2014（平成 26）年 10 月 11 日（土）午後、吾が山形市の霞城公園に行って、内部およびお堀を一周し外観して来ました。桜の木は両公園に近いものがあります。目立ったのは銀杏と欅（けやき）の木です。しかし、両公園にあるような松と楓の大木はありませんでした。僅か数えられる程の細い何本かはありましたが。また、お堀には蓮・ジュンサイは見当たりませんでした。市民憩いの場所としての公園と胸を張るのであれば、日本庭園の趣が欲しい処ですが、その場合，松の木と楓が是非とも欲しいと思っています。最上義光（よしあき）公は、文では連歌等が得意であったようですが、それはそれとして、今後、平成の今世の公園管理関係当局の「百年の大計」を視座に当霞城公園の再構築に取り入れる事を念願するものです。松・楓を植えて、四季折々楽しめるような公園整備を提案するものです。

“　春桜霞城の園は秋紅葉（かえで）　夏冬通し緑の松が　”と詠いたくなる公園にして欲しい。

（５）羽州国３県で浮んだ象徴的な印象

“義光（よしあき）公は文武を磨き街興（まちおこ）し　山形栄えの礎造る（山形）”

“佐竹公は出羽に大道引き込んで　羽州興しに精魂奮う（秋田）”

“二色（ふたいろ）で大地に描く神の技　リンゴの紅とお米の黄色（青森）”

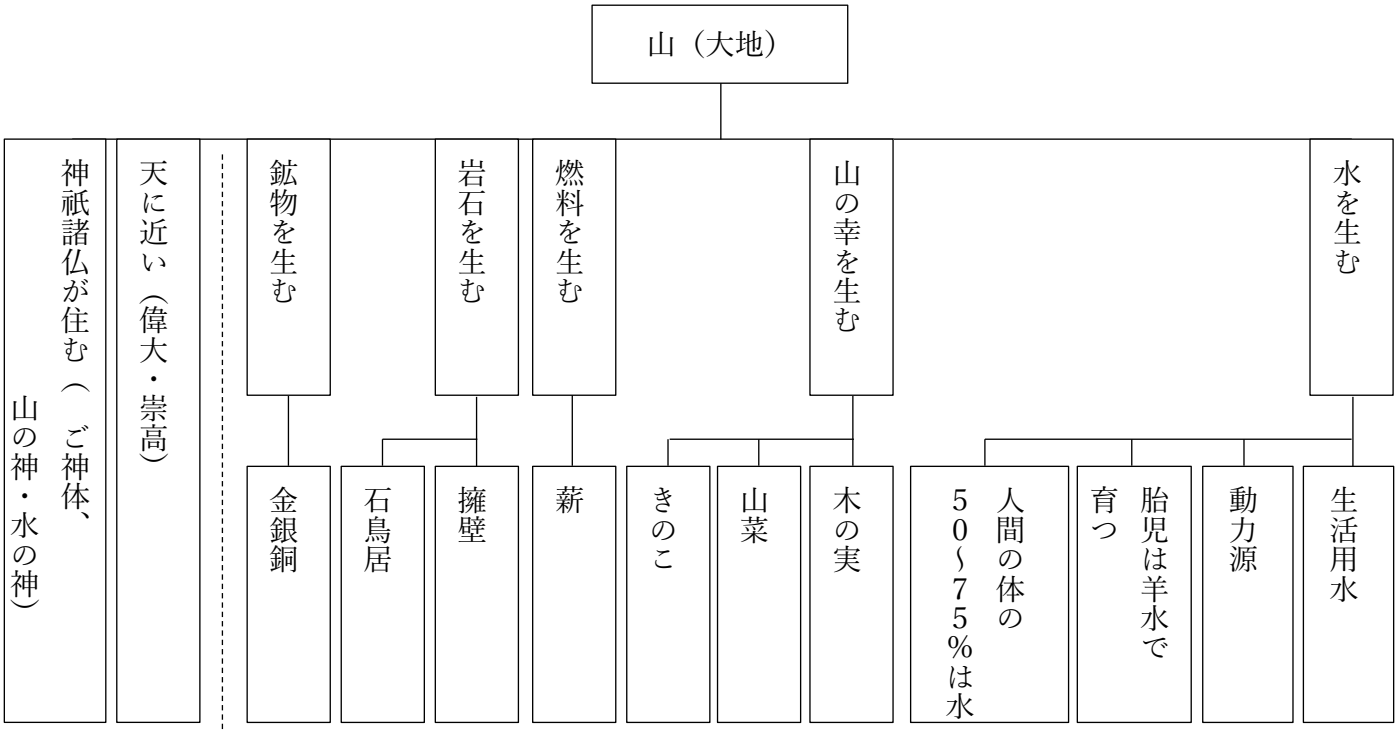
（６）身近な危機管理

10 日目、９月 23 日（火）11 時前、秋田市中心部入り口に通り掛った時です。あるアパート階段のペンキ塗りをしている人がおり、３m位離れた所に車１台があり、無風状態なのに透明の仮シートを被せていました。当然万が一、ペンキが飛散し車に付着した場合の事を考えてだろうとは推測出来たが、「今日は風が無いのに、わざわざ手間暇掛けたの？」と意地悪質問すると、「そう言う問題じゃないんだ！　仮シートは数分の手間暇で片付くのに、省略して何十万もの弁償を持ち出されれば合わないだろう！」この時ふとある事が浮かんで来ました。８月でしたが、当地区滝山交流センター事務長の斎藤さんが、エンジン草刈機で周囲の除草を行っていましたが、きちんと防護ゴーグルを着用していました。これまで、日常的にも同様のペンキ塗りや除草羽作業を沢山見て来ましたが、そのように対処するのは三分の一程度です。基本ルール・基本作業の遵守と叫ばれているが、簡単な事の省略行為で、半身不随になったり、命を落とす人は後を絶たないのです。これに類した、思いがけない、想定外の不慮の事故に遭遇してしまったと嘆く人が沢山いるのです。自業自得の自己責任の極め付きです。これは、手元に戻ってくる自発波動ブーメラン効果の発現なのです。ブーメランにどのような気持ちを乗せるかが問題です。何かに付け自分に誤魔化す気持ちが潜在していると、悪意に同期した世の穢れを掻き集めて自分に戻って来る、つまり災難が降り懸ります。陰徳・善意に心掛けている、社会常識を弁えている人の心の潜在意識は、それに同期した幸せに

繋がる事を掻き集めて戻って来ます。これは妄想ではありません。真理・真実に根差した現実です。

（7）あらためて自然

今回の旧羽州街道トレイルを通して、肥沃な国土、豊かな自然、取り分け山並みの美しさに感動しましたが、その時浮かんで来た構図が図―114のとおりです。また、川の流れを見ている時、浮かんで来た故事ことわざを3点取り上げて見ます、インターネット掲載事項等を参考に私の解釈を入れました。

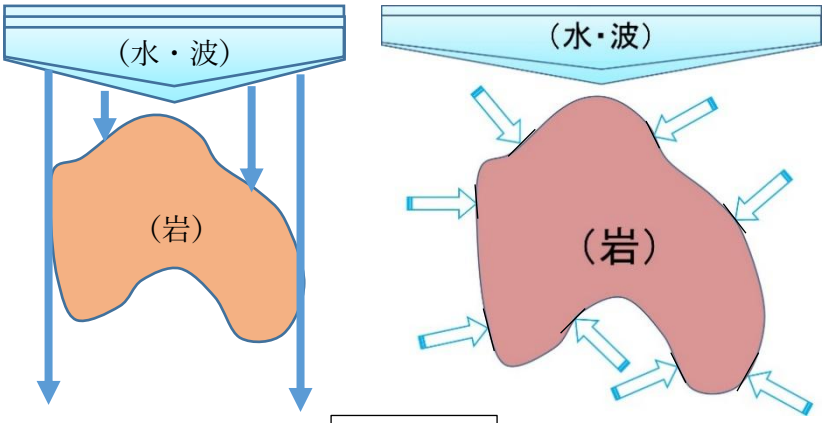


図－114

その1：「水は方円（ほうえん）の器（うつわ）に随（したが）う」〔韓非子（かんぴし）〕

四角い器に水を入れれば水も四角い形になり、丸い器に水を入れれば水も円形になる。転じて、人も環境や付き合う人物（交友）如何で良くも悪くもなると言う事。また、柔軟性・協調性が大事と言う事。水が大きな岩に衝突した時、衝撃を与えるが破壊してまで直進しようとはしません、また、相手に吸収されようとはしません。上手に交して何事もなかったように通り抜けて行きます。似たような響きのものに「長いものには巻かれろ」があるが、「似て非なるもの」です。これは受動的（自己を失います）ですが、前者は能動的（自己喪失はありません）です。

水には面白い性格（物理現象）があります。岩（障害物）に水（波）が当った時、水はどのような動きをするのか。図―115左のように直進する、すり抜けて行くと言うイメージではありません。同図右のよ



図－115

うに、岩の全周囲に、裏側まで隈(くま)なく回り込み、全ての面（正しくは点）に於ける接線に垂直に当たるのです。別の言い方をすれば、全周囲の、ある接線に垂直に当たる全ての点を求めて回り込むと言う動きをするのです。この事から学ぶ事があります。

✓　一つ目は、垂直に当ると言う事は、正々堂々真正面に立つと言う事で、後ろから鉄砲を打つような事はしません。つまり、本人の居ない処で誹謗中傷の悪口・陰口を叩かない事です。

✓　二つ目は、裏側、全周囲に回り込むと言うのは、先入観である人の一面だけを見て全体を見た如く軽々しく人物評価はしないと言う事です。能力を表に出さない人、「能ある鷹は爪を隠す」人が沢山いる可能性があり、それを探し出そうとする人付き合いの姿勢が大事です。

“水魂(すいこん)は岩に当たって回り込み　全周訪ね真価を探す”

“川流れ上より生まれ中(なか)を継ぎ　下(した)へ下(しも)へと頭を垂れる”

その２：「流れる水清く、留まる水は腐る」〔呂氏春秋(りょししゅんじゅう)〕

常に流動している水は、例えゆっくりでも流れる水は決して腐る事はない。転じて、何かにと謙虚に行動している人には沈滞は無いが、驕り高ぶる人、地位が上がるに従い、とかく動かなくなる（実務をしなく、口・指で人を動かそうとする）から因循姑息に流れがちとなり、老弊の害を蒙る事になります。（企業や役所だけではなく、地域社会の種々雑多の組織の何何長になると、とかく慢心して高飛車になる人が実に多いことか。）

その３：「水清ければ魚棲(す)まず」〔孔子家語(こうしけご)〕

あまりにも水が清く澄んでいると、魚の餌になるプランクトンも繁殖しなく、棲みつかなくなる。転じて、余り清廉・高潔過ぎると返って人に親しまれなくなります。この故事を送りたくなる人はめったにいない、逆で、心・頭が濁り切って横柄な人が先立つ人に多いことか。特に政治家。

５．四国遍路のことを初めて知った

本件街道を歩きながら、このスルーハイクを一つの節目として、次の５年間の取組みについてあれやこれやの思案が時々浮かんで来た。そんな中で、12 日目の９月 25 日(木)の早朝、図－116 を参照のこと、秋田県三種町（八郎潟東北部）の児玉商店に軽食探しに立ち寄った。その時、ご夫妻から四国 88 か寺霊場参

図－116

拝の結願達成証書を見せて貰ったが、こういうものを受領出来るのかと初めて知った。そのことをご夫婦で話す時の笑顔と輝く表情がとても印象に残り、無性に「私もやりたい！」と強い気持ちになった。

＜後日談＞

児玉さんを懐かしく思い出したことから 2021(R3)年 10 月 13 日(水)、ご自宅を訪問し対面して来ました、とてもお元気でした。この時点で私は四国８か寺徒歩へんろスルーハイクは３巡行っていたが、ご夫婦共々大いに盛り上がりました。

６．歴史の十字路

図―117 は石原慎太郎さんのコメントです。「旧羽州街道」スルーハイクで拘って来たものの一つに、前述のとおり分岐点・合流点、Ｙ字路・十字路の文字を使って来ました。私はこの図―145 に刺激されて、改めて「十字路」の意味合いが浮かんで来ました。縦糸と横糸を編んで布が出来る事です。縦と横の方向は 90 度異なります。敢えて異なるものを編む事により丈夫になる、強さが増します。人と人との関係にも当て嵌まります。異なる人間が集まってこその新しいものが生まれ、絆がより強化され、団結力が生まれます。これには前提があって、それぞれがまったくの別物であってよいということです。自分の心の中も同様に、一つの過去の成功体験に固執にしている処には発展はありません。従来の考えと異なる方向の斬新な発想を意識してこそ、従来の視点と交わり合って、幅の広い着想が芽生えるのです。あちらのものが、こちらの事に刺激を与える現象です。　くれぐれも、相互尊重・対等互恵がベースにあります。知識偏重でベラベラ一方的に披歴するが如くの人は論外、対象外です。

2014(H26)12/17(水) 山新

「歴史の十字路に立てた」

次世代の党 石原氏が引退会見

落選した今回の衆院選で政界引退を表明した次世代の党の石原慎太郎最高顧問(82)は16日、東京都内の日本記者クラブで記者会見し「キャリアの中で歴史の十字路に何度か立つことができたのはうれしい経験だった」と振り返った。石原氏は「晴れ晴れとし

笑顔で記者会見する次世代の党の石原慎太郎最高顧問＝16日午後、東京・内幸町の日本記者クラブ

図－117

鎌田東二氏はその著書「サルタヒコの旅（創元社）」に於いて、――・・・サルタヒコが天と地を結ぶ道を知る者であり、海と陸を、道を知る者であり、森（山）と川を結ぶ道を知る者であり、村と村を結ぶ道を知る者であり、世界の接点と境面にある事を意味している・・・――と表現されていますが、このような猿田彦大神（サルタミカミ）を抱きながら歩けた事に感激しています。　それにしても、この５年間の最後のスルーハイクとなったが、何かにと良縁（縁起が良い事）に恵まれました。運・不運が交差・交錯する人生ですが、日々前向きな姿勢に心掛けている生き方に対する神（かみ）・仏（ほとけ）からの贈り物と思っています。

７．改めて一期一会に感謝

我が儘で伸縮を制御出来ない寿命です。余生を精一杯楽しく生きたく“問いかける吾の人生どう描く　宇宙と対話思うが儘（まま）に”の心で、歴史街道ハイクを行っていますが、これも他人（よそ）様からの様々な陰に陽に、ご協力があってこその充実感です。自分の意思もありますが、他人（ひと）様からの支援と自分の努力の割合を敢えて言うならば、前者５１、後者４９の割合だと思っています。今回の思いの全てを成し遂げ、新青森駅から夕方の新幹線で帰宅に向かいました。まもなく日が暮れ、窓一面に星空が広がって来ました。その時浮

かんで来た唄が次のとおりです。

“忘れない叶える夢の裏側に　一期一会の支援が後押し”

“膨らますさらなる夢のその先を　命が燃える新輝の舞台”

“星空に二人で描く十字星　猿田彦大神（サルタミカミ）と惜別の宴”

８．旧奥州道中との関係

図(表)－118 を参照のこと。

合流点の南は桑折から、北は油川までの両方の行程を比較すると右表のとおりになります。南側（下）から北側（上）へ向けて歩いているので敢えてこのように記述しています。

その１；17 日間と同じ日数が掛りました。実歩行距離を見るとほぼ同じ距離を歩いた事になり、結果して所要日数も同じになった訳です。

その２；偶然的な数字の取り合わせを感じます。旧奥州道中は西暦 2013 で、桑折通過が９月 13 日です。これは意図したものではなくまったくの偶然です。

旧羽州街道は西暦 2014 年で桑折通過（スタート）が 14 日です。これもまったくの偶然です。油川で見ると、奥州の通過日は９月 29 日で、上から語呂合わせで「くしくも（9）に（2）くらしい（9）」日に通過しました。同じ油川を、羽州はゴール日であるが、９月 30 日は、下からの語呂合わせで「さん（3）きゅう（9）」となりました。逆から眺めた理由は、旧奥州道中は東北の右（東）側に位置しているが、旧羽州街道は左（西）側ですから、相互に反対の

	旧羽州街道 2014（H26）	旧奥州道中 2013（H25）
最終地点		三厩（青森）10/1(火)
17(ゴール)	油川（青森）9/30(火)	油川（青森）9/29(日)
16	浪岡（青森）9/29(月)	浅虫（青森）9/28(土)
15	石川（青森）9/28(日)	野辺地（青森）9/27(金)
14	白沢（秋田）9/27(土)	十和田（青森）9/26(木)
13	深関（秋田）9/26(金)	三戸（青森）9/25(水)
12	鶴形（秋田）9/25(木)	二戸（岩手）9/24(火)
11	鹿渡（秋田）9/24(水)	火行（岩手）9/23(月)
10	土崎（秋田）9/23(火)	芋田（岩手）9/22(日)
09	和田（秋田）9/22(月)	柴波（岩手）9/21(土)
08	神宮寺（秋田）9/21(日)	花巻（岩手）9/20(金)
07	横手（秋田）9/20(土)	水沢（岩手）9/19(木)
06	院内（秋田）9/19(金)	一の関（岩手）9/18(水)
05	金山（山形）9/18(木)	築館（宮城）9/17(火)
04	舟形（山形）9/17(水)	吉岡（宮城）9/16(月)
03	東根（山形）9/16(火)	仙台（宮城）9/15(日)
02	松原（山形）9/15(月)	岩沼（宮城）9/14(土)
01	関（宮城）9/14(日)	白石（宮城）9/13(金)
00(スタート)	桑折（福島）9/14(日)	桑折（福島）9/13(金)
元々のスタート		日本橋（東京）9/4(水)
日数	始終基点	始終基点
実歩行距離	557 km	552 km（全 943 km）
計画距離	502 km	478 km（全 835 km）

図(表)－118

相を持っている事からです。

８．『稲・米』を寿ぐ替え歌

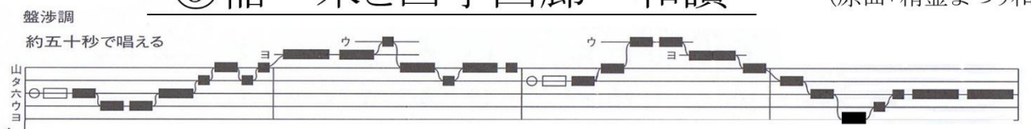
前述した「３．歩いて見た～感謝感激の連続（４）拘った稲穂」の処で触れた『稲・米』を寿ぐ詩を創作し、叡山流和算の原曲「精霊まつり和算」に乗せた替え歌「稲・米と四季回廊」を作って見たので、次頁に図－120として記載します。

図－119

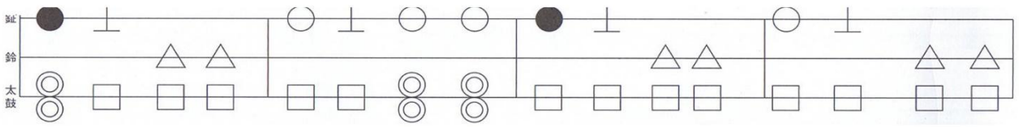
⑨稲・米と四季回廊－和讃

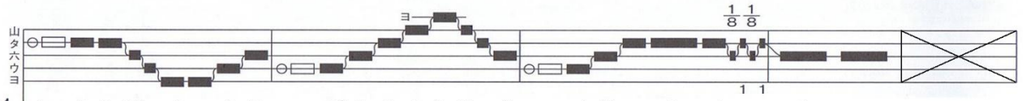
（原曲「精霊まつり和讃」）

盤渉調
約五十秒で唱える

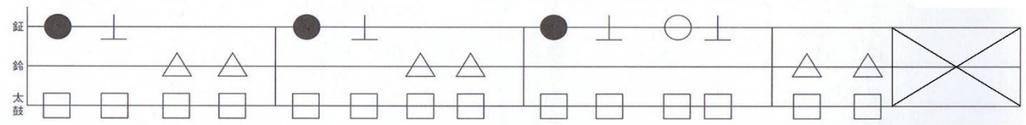


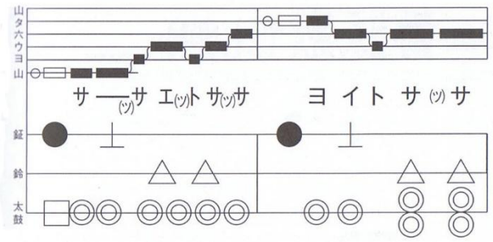
1 ひ のも と -くに- の　－－ハ イ ハイ　しゅしょく－ が －　－－こめ- よ　－
　ご こく の -ぬし- よ　－－ハ イ ハイ　てんし－ の －　－－つか- い　－
2 ね ゆき が -とけ- て　－－ハ イ ハイ　うらら－ の －　－－みそ- ら　－
　か ぞく み -んな- で　－－ハ イ ハイ　じん ぎ－ を －　－－まつ- る　－
3 に ちが が -んば- り　－－ハ イ ハイ　こう ひ－ を －　－－ちら- す　－
　せ いちょう -ねが- い　－－ハ イ ハイ　こころ－ を －　－－かけ- た　－
4 か ぜに さ- そわ- れ　－－ハ イ ハイ　たの は－ ら －　－－ゆれ- る　－
　た から の- こめ- を　－－ハ イ ハイ　しんぶ－ つ －　－－でん- に　－
5 だ いち の- つち- は　－－ハ イ ハイ　やすみ－ を －　－－もら- う　－
　い ねと お- こめ- は　－－ハ イ ハイ　へいわ－ の －　－－しる- し　－





1 ［ からだ－をつくり　げんきをふる－う　くろ － こ で－－－－ す　－
　 ［ びはくのすはだ で　おりめふしめ－に　かお － を だ－－－－ す　－
2 ［ いなだ－をつくり　すいろをひい－て　たね － を ま－－－－ く　－
　 ［ さくら－がすぎて　みなえをうえ－る　さと － の は－－－－ る　－
3 ［ ふうう－じゅんじに　つきとほしも－が　はた － ら い－－－－ た　－
　 ［ じょうぶ－にそだち　いなほがふと－る　さと － の な－－－－ つ　－
　 ［ こがね－まばゆい　もみがこすれ－て　さち － を よ－－－－ ぶ　－
　 ［ しんせんくもつの　ぎょくざをかざ－る　さと － の あ－－－－ き　－
5 ［ ねむり－のなかで　ちからをため－る　さと － の ふ－－－－ ゆ　－
　 ［ しきの－めぐりに　しぜんがこた－え　はる － が き－－－－ た　－





(注1)楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会叡山流詠歌和讃音譜集に掲載
(注2)替え歌の詩(短歌・和讃)は大沼香作　2015(H27)年6月6日(土)

◎ 太鼓を叩く
◎ 両手同時に叩く
□ 太鼓の縁を叩く
※舞踊の場合は三十秒で唱える

一、日の本国の（ハイハイ）主食が米よ！
身体を作り元気を奮う黒子です（サッサエットサッサヨイトサッサ）
五穀の主よ（ハイハイ）天子の使い！
美白の素肌で折り目節目に顔を出す（サッサエットサッサヨイトサッサ）

《以下、掛け声は同じ》

二、寝雪が溶けて（八）うららの美空、稲田を造り水路を引いて～種を蒔く（サ）
家族皆で（八）神祇を祀る、桜が過ぎて御苗を植える－里の春（サ）
三、日が頑張り（八）光陽を散す、風雨順時に月と星もが～働いた（サ）
成長願い（八）心をかけた、丈夫に育ち稲穂が太る－里の夏（サ）
四、風に誘われ（八）田の原揺れる、黄金まばゆい籾が擦れて～幸福を呼ぶ（サ）
宝の米を（八）神仏殿に、神饌供物の玉座を飾る－里の秋（サ）
五、大地の土は（八）休みを貰う、眠りの中で力を貯める－里の冬（サ）
稲とお米は（八）平和の印、四季の巡りに自然が応え～春が来た（サ）

日月を二つ抱き締め道を行き　陰陽廻(めぐ)る心に気付く
稲穂から素敵な唄が聞こえ来る“満つれば垂れて謙虚に生きよ”
日(ひ)の本の穀倉帯が賑やかに　神祇(じんぎ)諸仏と豊年祭り

⑭２０１４（平成26）年「旧羽州街道」スルーハイク（１６連泊１７日間） の 全踏破歩行記録 ----- 移動行程集計表

＜　携行したガーミン社の「ＧＰＳオレゴン機（地図搭載、ＧＰＳ軌跡＆タイム　スタンプ機能）」と「カシミール３Ｄ（フリーソフト）」により集計　＞

「大香ブランド老魂サブタイトル」は　～　六十五(むつご)ハート全開－奥羽両州連結大作戦(日本第４運河開通)　～

（※１）”奥羽と”は、「旧奥州道中」の「奥」と、「旧羽州街道」の「羽」を抽出し、連結の意味に接続している。
（※２）「連結」の意味は、江戸は東京日本橋から青森県三厩までの「旧奥州道中」を、２０１３（平成２５）年９月４日（水）～１０月1日（水）までの２７連泊２８日間をかけスルーハイク完歩済であり、これと南（桑折）北（油川）で連結したという事。
(※３)「六十五（むつご）」は、節目の６５歳の年に実践した事から呼称付けしたもの。

累積日数	行動月日 月日	行動月日 曜日	街道の歩行区間 通過主要地点・旧宿場名・始終点	実歩行距離 km	歩行時間 歩行開始 時:分	歩行時間 歩行終了 時:分	歩行時間 歩行時間 時間:分	歩行時間 時間換算	平均時速 km/h	天候	備考	宿泊先(略称) 所在地	宿泊先(略称) 名称
				a	b	c	d=c-b	e	f=a/e				
												スタート	
１日目	9月14日	（日）	［桑折(S)］→（小坂峠）→戸沢→関（七ヶ宿）	27.1	9:10	17:00	7:50	7.8	3.5	晴	当日、自宅から桑折の基点へ移動	宮城県七ヶ宿町	七ヶ宿館
２日目	9月15日	（月）	（前終点）→湯原追分→(金山峠)→上山→松原	43.4	5:25	16:40	11:15	11.3	3.9	快晴		山形県山形市	自宅
３日目	9月16日	（火）	（前終点）→山形→天童→東根	34.6	6:45	16:20	9:35	9.6	3.6	晴後小雨		山形県東根市	不二乃湯
４日目	9月17日	（水）	（前終点）→ 楯岡→土生田→尾花沢→（猿羽根峠）→舟形	33.6	6:30	16:20	9:50	9.8	3.4	晴		山形県舟形町	伊藤屋旅館
５日目	9月18日	（木）	（前終点）→新庄→泉田→(上台峠)→金山	29.4	8:00	16:45	8:45	8.8	3.4	曇・晴		山形県金山町	北上旅館
６日目	9月19日	（金）	（前終点）→(森合峠)→(主寝坂峠)→（雄勝峠／県境）→院内	32.5	7:00	16:25	9:25	9.4	3.5	曇後雨		秋田県湯沢市	菊地旅館
７日目	9月20日	（土）	（前終点）→小野→湯沢→十文字→横手	37.6	5:45	16:10	10:25	9.9	3.8	晴		秋田県横手市	尾張屋旅館
８日目	9月21日	（日）	（前終点）→金沢→六郷→大曲→神宮寺	34.1	6:00	15:00	9:00	9.0	3.8	快晴	距離上の中間通過	秋田県大仙市	月岡ホテル
９日目	9月22日	（月）	（前終点）→刈和野→協和→船沢→河辺和田	35.1	6:35	15:45	9:10	9.2	3.8	快晴	私の中間日	秋田県秋田市	外山旅館
１０日目	9月23日	（火）	（前終点）→御所野→千秋公園（秋田市）→土崎	28.1	7:05	16:20	9:15	9.3	3.0	快晴		秋田県秋田市	ビジネスホテル直
１１日目	9月24日	（水）	（前終点）→金足→昭和大久保→八郎潟→鹿渡	37.0	5:50	15:55	10:05	10.1	3.7	晴・曇		秋田県三種町	宮田旅館
１２日目	9月25日	（木）	（前終点）→豊岡→大森→檜山→鶴形	24.7	8:30	15:30	7:00	7.0	3.5	曇・小雨		秋田県能代市	駅前旅館
１３日目	9月26日	（金）	（前終点）→富根→二ツ井→大町→深関（鷹巣）	30.3	6:40	15:00	8:20	8.3	3.6	快晴		秋田県北秋田市	ホテル八木
１４日目	9月27日	（土）	（前終点）→綴子→長坂→早口→大舘→白沢	33.0	5:50	15:45	9:55	9.9	3.3	快晴		秋田県大館市	山田旅館
１５日目	9月28日	（日）	（前終点）→長走→（矢立峠／県境）→碇ヶ関→大鰐→石川	37.5	5:40	15:35	9:55	9.9	3.8	快晴		秋田県弘前市	東横イン弘前駅前店
１６日目	9月29日	（月）	（前終点）→弘前公園（弘前市）→藤崎→増館→浪岡	32.4	7:00	15:25	8:25	8.4	3.8	快晴		秋田県弘前市	ビジネスホテル新宿
１７日目	9月30日	（火）	（前終点）→大釈迦→鶴ヶ坂→新城→［油川(G)］	26.1	6:30	13:00	6:30	6.5	4.0	快晴	奥州（松前）街道に合流、13時に雨	ゴール	
											（新青森駅から自宅へ）→	山形県山形市	自宅
			合計	557						502	←ルート沿い計画距離		
			１日平均	32.7				9.1	3.6	29.5			
				km				時間	km/h	km			

（注１）ルート沿い計画距離に対して実歩行距離が、55km（１日当り3.2km程）長くなった理由は、山道の登降（沿面距離）、神社・仏閣立寄り等のジクザク歩き方の影響による。
（注２）距離と時間の集計は、旧街道・古道沿い関係のみであり、長時間（片道15分・500m程度超過）街道を離れた場合などの移動ロスは除いて補正している。